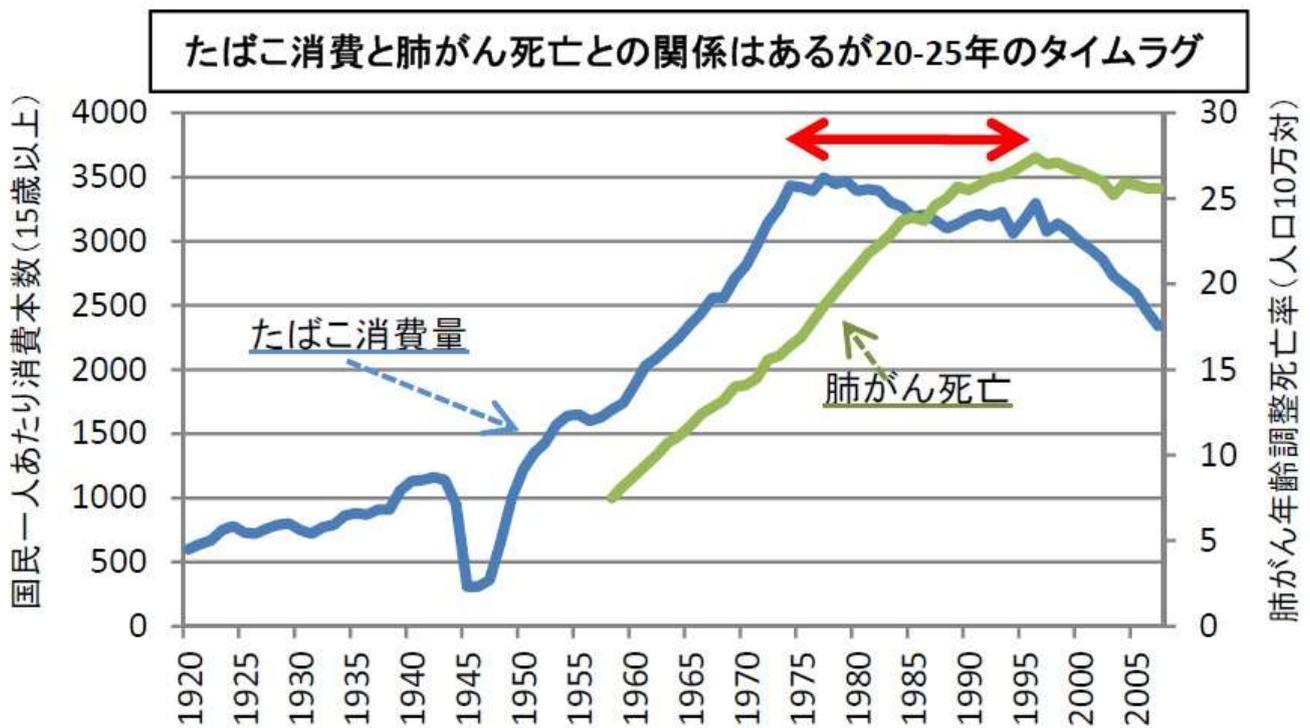


週刊 **タバコの正体**

タバコを吸う人が多いと、肺がんで死亡する人が増えます。逆にタバコを吸う人が少なくなれば、肺がん死亡者は少なくなります。下のグラフがその事を示しています。

このグラフは平成24年の厚生労働省生活習慣病対策室の資料から引用したのですが、タバコの消費量と肺がん死亡率のグラフが並行している事がわかります。知ってのとおり、タバコは1年や2年吸い続けても、すぐに病気にはなりません。30~40年もかけて徐々に病気になるので、グラフが示すようにタバコの消費量が肺がん死亡者数となって現れるまでに20~25年ぐらいかかるのです。



幸い日本のタバコの消費量は1980年ごろをピークに下がってきています。そのおかげで現在では、肺がん死亡者が減少傾向にあります。それでも1960年(50年前)の3倍以上の高い死亡率である事には変わりありません。

タバコを減らせば肺がんが防ぐことができるのなら、社会全体でタバコを減らす努力をすべきだと思います。そのために、とりあえず君たち若者がタバコを吸い始めなければ、20年後のグラフを下げることになるでしょう。一人でも多くの若者に、そうして欲しいと願っています。

産業デザイン科 奥田 恭久